

授業関連システムの開発に関する研究

4E-10

—学習指導案の構成と授業の展開のシステム化—

中嶽治磨

京都文教短期大学

1. はじめに

主題の研究は、「新しい学力観にせまる、豊かで効率の高いきめの細かい授業の展開」を可能にする授業関連システムの開発をねらっている。これらのシステムは、ほぼ全般にわたって構成を終わっているが、まだ十分とはいえないし、すべてが新しい学力観を意識したものではない。

今回は学習指導案の構成の段階での、学習意欲・態度や学習方法の重視と、授業の展開過程における評価と処遇にウエイトおいた方法のシステム化について報告する。

2. これまでの研究の概要と本報告のねらい

(1) これまでの研究結果の概要

主題の研究では、授業の理想モデル(処遇モデルと評価モデル)を設定し、これを主軸にして、概略、次のようなシステムを構成してきた。

- ① 授業構想設定(目標分析)システム
- ② 教材構想設定(教材分析)システム
- ③ 学習指導案構成(評価)システム
- ④ 授業展開システム
- ⑤ 授業分析システム
- ⑥ 授業評価システム
- ⑦ 事前・事後テスト分析システム 等

これらのシステムは、学習者・環境の実態の評価・処遇等を含む、トータルシステムとしての総合的な構造をもたせている。

Development of System concerned with
Teaching

Osamaro Nakadake

Kyoto Bunkyo Junior College

Makisimacyo, Ujisi, Kyoto 611, Japan

(2) 本報告のねらい

新しい学力観に対応するシステムの見直しは、①②③については一応終了し、④については現在検討中である。今回は、③④に関する課題として、(A)新しい学力観に対応する学習・指導の類型化と、これによる学習指導案の構成をどうするか。(B)構成した指導案をどう展開し、展開過程での評価をどう進め、好ましい授業にどう改善するか。また、これらをどうシステム化するか。について検討した結果の概要を報告する。

3. 学習指導案の設定の観点と指導案の構成

(1) 新しい学力観にせまる学習指導案の特性

これまでの指導案は、学習素材に関する知識と理解・技能の習得を重視して、学習者の学習の進め方や学習態度の育成等に対して、十分に着目したのではない。

そのために、以下で構成する指導案では、新しい学力観に沿った特性の導入を主眼とした。

(2) 学習指導案構成の方針

- (1) 指導案は導入・展開・まとめの分節にわけ、さらに、各分節を数個のステップにわけ。
 - (2) 各分節での新しい学力観にせまる理想的な学習・指導の活動・内容等を類型化する。
 - (3) 処与の授業の目標に関して、類型化した学習・指導の項目を組み合わせて、理想的な指導案を構成する。
 - (4) この指導案を具体化するために、必要なステップに対して、1) 予定指名者・予定評価者
2) 評価質問 を組み込む。
 - (5) 各分節のねらいに応じた評価問題を作成する。
- (3) 予定指名者・予定評価者および評価質問の設定—学習指導案の具体化への検討—

1) 予定指名者・予定評価者の選定

構成された学習指導案は、具体的な学習者の好ましい学習活動を引き出すことが必要である。

そこで、

選定する学習者 = 教材の困難度 (レディネス)

× (授業展開のスタイル × 学級内の位置付け)

の観点から、各予定者の選定を進めることにした。

2) 評価質問の選定

まず、導入 → 展開 (ゆさぶり) →

展開 (やまば) → まとめと発展 (→ 家庭学習)

のそれぞれの段階について、

例えば、導入用評価質問では、

1) 学習課題は何かがよくわかりますか

6) このような課題を解いて見たいと思いませんか

等を、既に構成した評価質問 84 問の中から、教師の活動や学習者の活動について、的確な評価が必要な場合は、それぞれのステップでの評価質問を選出することにした。

(4) 評価問題の作成

導入・展開 (ゆさぶり)・展開 (やまば)・まとめと発展の各段階に対応した、準備問題・過程問題・日標問題・発展問題を作成することにした。

(5) 評価結果に対応する処遇内容の検討と指導案の強化

評価の結果に基づいて、学習内容をより豊かに、より強力なものにするための、環境の設定や処遇のありかたについて検討し、指導案をより現実的なものにする。(右図参照)

4. 構成された指導案による授業の展開と評価

(1) 授業展開の方法

以上の指導案は、学習・指導の各ステップを 1 レコードとした、ランダムファイルとしてフロッピーデスクに保存されているために、このステップを順次、または、必要に応じて適宜引き出して、授業を展開することができる。

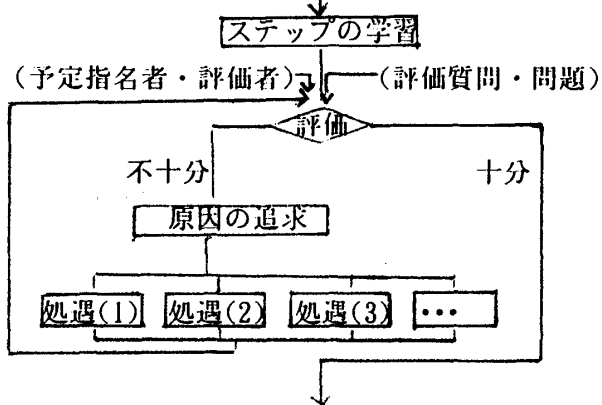
この場合の展開は、基礎・基本を重視した新しい学力観にせまる学習者の主体的・積極的な学習

を支援するものでなければならない。

(2) 展開過程における評価と処遇

展開過程における評価は、主要な学習のステップにおいて、指名予定者や評価予定者に対して、評価質問や評価問題を与え、学習の展開状況の評価・診断することになる。その結果、処遇が必要な場合は、適切な処遇を行い、授業の効果的でスムーズな展開をはかる必要がある。

図 展開過程における評価と処遇



(3) 授業展開後における評価と処遇

授業の展開の状況によっては、展開過程での評価と処遇では不十分になることも多い。この場合は授業展開後に対応を検討することになる。実際には、授業全体に関する家庭学習 (宿題・復習等) や次時の授業における学習 (処遇) が問題になる。

5. おわりに

指導案の適否は授業の展開を大きく左右する。従って、よりよい授業の展開には、より好ましい指導案の構成が要請される。これには、授業シミュレーションによる授業予測が効果的である。また、学習環境の設定のモデル化、特に授業の展開と評価に連動した効果的なモデル化・システム化が必要である。今回は授業の展開過程における評価結果と処遇のあり方に関するモデル化・システム化を検討した。しかし、不十分な点も多い。これらは、今後の検討課題であると考えている。

この研究に関して、文部省科学研究費補助金 (試験研究) の補助を受けている。